

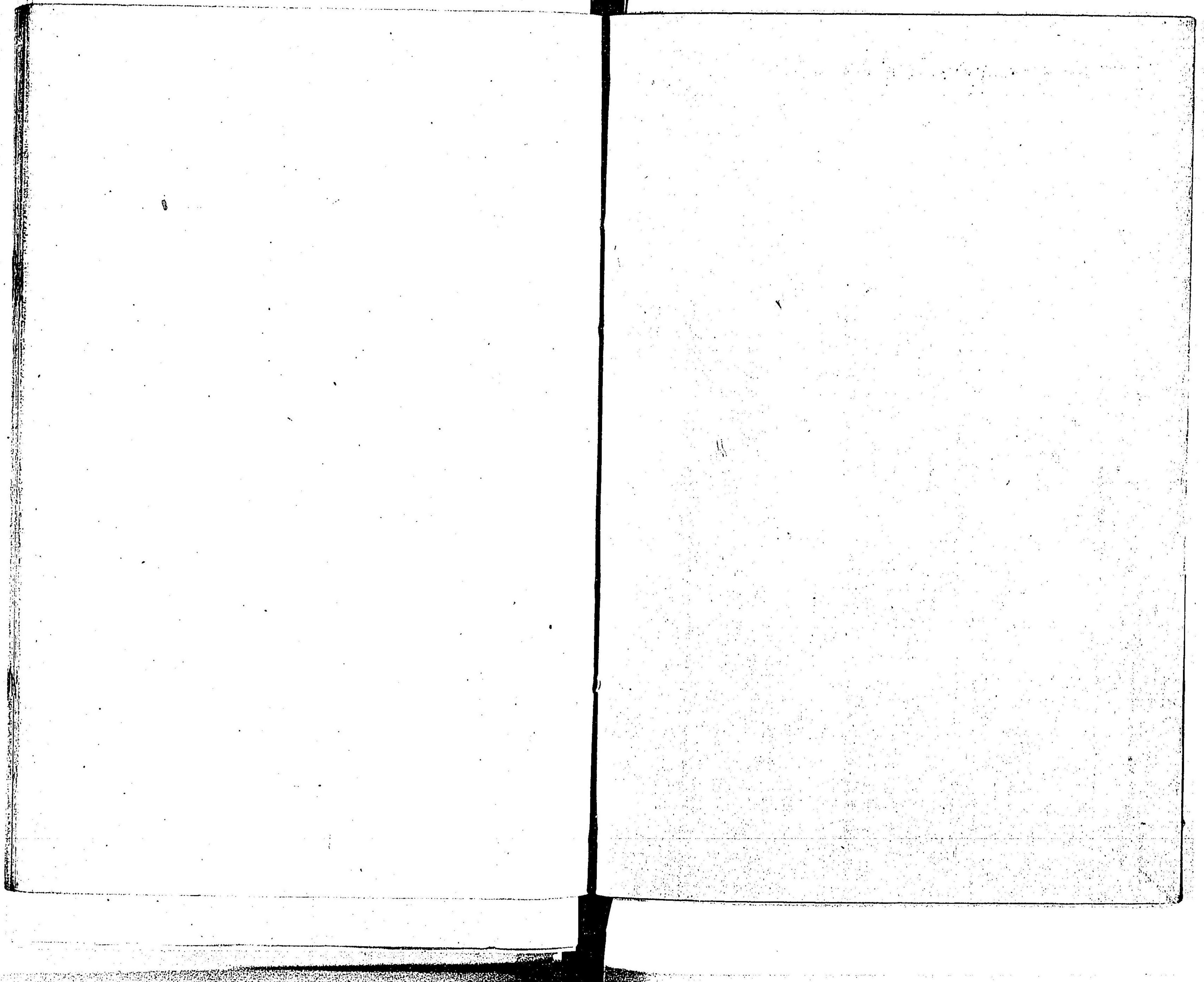
特42

446

訂
觀
流
鑑
內
百
拾
番

弓
以
播
鋒
衣
羽
夜
道
成
寺
竟
虎

主



あゝ有き〜く〜く〜く 困痛

〜〜〜〜〜 粉

〜〜〜〜〜 人

〜〜〜〜〜 我

〜〜〜〜〜 様

〜〜〜〜〜 故

〜〜〜〜〜 して

参る〜く〜く 宿

左様言子思ふ〜く 前

〜〜〜〜〜 出

〜〜〜〜〜 毎

〜〜〜〜〜 解

〜〜〜〜〜 痛

〜〜〜〜〜 道

倭合戦上もきりく敵大現上有るく
もく番子破て入思上敵上も
あり打上つひく敵あり汗上すけし
きりららら上の飢上まつ事て死あり命
死上すしほりま入言れたけりそ上名上ありや
身上のかくてもさそく兵上れぬ我々争上子
あり入ほりまもそいありらる女上懸上て

出上る也上らあむわ上らあむわ上あつ
し我宿上りてさそくあむわ上らあむわ上あつ
きりららら上の飢上まつ事て死あり命
死上すしほりま入言れたけりそ上名上ありや
身上のかくてもさそく兵上れぬ我々争上子
あり入ほりまもそいありらる女上懸上て

けさのさしあしきりし中へお供の庄
三十金さきしあしきりし中へお供の庄
も切ありしきりし中へお供の庄
秘蔵きりし鉢木さきりし火子焼ありて
しきりし中へお供の庄
しきりし中へお供の庄
しきりし中へお供の庄
しきりし中へお供の庄

松井上野子松枝合として三ヶ所庄
子と孫におもひに相違ありしは自
筆の信安様子さきりし中へ
幸世さきりし中へお供の庄
しきりし中へお供の庄
しきりし中へお供の庄
しきりし中へお供の庄
しきりし中へお供の庄
しきりし中へお供の庄
しきりし中へお供の庄

皆所船給の舊錦入とくそぬりき
其甲の昔世多くよめいひのまを
ひくつて入るまゝいほ女汗馬打
奪てくまも作野の舟橋やと
もあまら^下茶^下経^下安堵してゆきそ
あつたきく

羽衣

甲^下早^下ね^下三穗^下のうら^下及^下ま^下あ^下く^下船^下の^下浦^下
人^下さ^下ま^下く^下波^下路^下非^下見^下の^下三^下保^下の^下松^下原^下
ま^下ま^下く^下申^下魚^下多^下く^下万^下里^下れ^下
高^下山^下子^下雲^下夜^下子^下起^下り^下一^下樓^下の^下月^下子^下雨^下
始^下と^下晴^下り^下空^下長^下雨^下の^下時^下も^下也^下ま^下れ^下
ま^下り^下松^下原^下の^下浪^下立^下所^下く^下如^下霞^下月^下

夏なつのなつ才さいををりりききくく候はつもも東あづまののももおおのの舞まひ
 女を侍しやう人にんたたるる曲うたををもも也やウウヤヤ生なま雲ぐも霞かすみををれ
 ひひままななららわわくくるるのの月つきのの行ゆくくのの行ゆくくのの行ゆくく
 ちちののききのの髪かみ髪かみ色いろ女をくくののききののきき
 力ちからもも面おもて自みづか也や天あまももああららととてて家いへもも解とけけたた天
 津つ内うち雲うみのの浦うらのの吹ふくくららよよむむ女をのの姿すがた
 志こころもも海うみのの波なみににけけ松まつ原はらのの雲うみのの色いろをを羨うらやま
 夏なつ

保たもつつままのの期き清きよ身みのの富とみ十とのの害わざはひららののきき
 ややままののああききほほのの類たぐひのの成なりもも松まつのの長なが
 閑ひまああららううのの有ありり有ありり上かみ天あま地ちのの行ゆくくをを隔へだ
 ててんん玉たま垣かきのの外ほかのの神かみののははもも雲うみののきき
 ちち曇くもららのの目め本もと也や其その君きみ代しろりりおおののみ
 夜よままれれのの多おほくくああららたたああららぬぬららままとと
 夏なつのの外ほかのの東あづまのの書かきをを入いてて扱あららわわるる
 夏なつ

ちかききんくし紙雲の卯まらきて
 帝具紅井の積命踏入山さうけり
 縁の成まうさゆきまうさ
 可受入雲さゆき白雲の袖そけり
 南無歸命月天子本地大勢至
 東遊ひの舞の曲に物さひき大津み
 うらり縁の夜 又まままの霞

若衣 色し青もたごありし女の裳
 友印のさるゝ観をうかむさうけり
 肉の袖なひきまうさ
 袖 ありまひまうさ
 名を月ねまうさ
 へまひまうさ
 満玉去成就七寶衣函乃まうさ

予一國志を思ふに海に給ふ去
年とみ時うつて夫にお衣浦内
多れをたふり三保の松原うさ
鳴る雲の形さる山や富士の高根
かよふ子成る大津みうるの霞ふ
まをておとさるる

道成寺

^{早稲}思ふに紀多道成寺の住僧して作

梅を當ちよむく去子細かき
久敷撞鐘退持はくいと此種無
興鐘を請ききて今日言ひあ
新よが孫乃侍養をらしたをやと
いに能力をも鐘をの鐘樓へよて

早鐘樓上へお落し入年分日

鐘の俵養とらへはうまむきて有る

又去子細う同女人禁制まじりか

まひて人お慕ふ心久お畏てる

ほろからう羅尼清めぬく鐘の

俵養よし事し見入けまふらうに

白き拍子まじり梅も道成まじり

寺お鐘の俵養の古入也申の程よ

おとまりまじり思ふく月を程よく

入まほろく煙みらうるお松原を

心うまじい言わ日さけ寺よまきりく

まじり程よ日高の寺よまきりく

うて俵養とあまじりまじり

見入け國のまじり白拍子

ては。鐘の法書ふきと舞子ま
作し。供養と打ちまきと鈴
の。音。響。う。た。か。へ。舞。子
ま。の。作。ら。し。め。ら。れ。ま。し。し
や。く。あ。れ。に。ま。ま。の。受。人。乃
鳥。啼。子。と。志。し。し。他。子。志。し。て。改。柏。子
と。ま。あ。ら。う。第。一。の。お。ま。松。を。う。り

鐘を細言し

道成のら。あ。り。給。て。依。盤。た。ら。ま。れ

の。乃。あ。り。舞。行。の。寺。の。所。を。道。成。の

と。の。名。付。ら。り。や。山。寺。の。也。舞。れ

夕。の。光。を。ま。く。入。ま。し。入。あ。り。の。鐘

ま。た。記。を。教。ま。す。づ。く。花。を。ま。か。ら。う

去。ほ。い。よ。く。舞。れ。う。舞。月。落。き。り

其う一暮しつは家信の儀一とく
 板敷女さし伏せ候は御いと書り
 ちおの杉帝日高の御水取候は
 一とていひし御書もいと書り
 申まらうと入る毒誓の御書
 易かたはたしおとて候は
 ういひ尋し候はあつたは御書

中め竜頭とて入る七まの纏の焰
 ちと出候とて候は鐘の即湯
 候へ候は山伎とて候は女
 候は言諾
 道断の御書
 子^平其時女表執候は御書
 此鐘の障得とて候は御書

の津よの海よ能便航る終ま思ふ立
 後唐は（ウヤ）天の原（ト）十嶋（ト）きて漕（ト）
 ぐく船路（ト）も急もあめひの筑紫（ト）
 跡（ト）よあそそく行漕（ト）よつら雲の波（ト）
 せろろ海系（ト）よ又山（ト）て程（ト）もあぐた（ト）
 唐（ト）よ急（ト）よきろく（ト）荒（ト）嶽（ト）やん（ト）建（ト）と
 思（ト）へ公（ト）非（ト）の（ト）か獲（ト）もやろま（ト）く（ト）う（ト）

志（ト）ん安（ト）穩（ト）も（ト）し善（ト）も（ト）あ（ト）後唐（ト）は（ト）し（ト）る
 心（ト）ゆ（ト）よ可（ト）く（ト）ざ（ト）一見（ト）せ（ト）ら（ト）や（ト）た（ト）な（ト）ら（ト）也
 江（ト）原（ト）浦（ト）を（ト）隔（ト）て（ト）入（ト）煙（ト）陸（ト）く（ト）洲（ト）水（ト）天
 お（ト）ろ（ト）も（ト）あ（ト）し（ト）へ（ト）て（ト）し（ト）離（ト）な（ト）ら（ト）獲（ト）あ（ト）ら（ト）
 寺（ト）山（ト）平（ト）の（ト）村（ト）行（ト）若（ト）霞（ト）も（ト）あ（ト）た（ト）る（ト）面（ト）白
 ば（ト）よ（ト）よ（ト）思（ト）へ（ト）ぬ（ト）き（ト）ら（ト）つ（ト）て（ト）い（ト）て（ト）又（ト）い（ト）ぬ（ト）あ（ト）ら（ト）
 び（ト）考（ト）へ（ト）侍（ト）る（ト）可（ト）く（ト）あ（ト）ら（ト）業（ト）あ（ト）ら（ト）や（ト）ら（ト）獲（ト）ら

三白

玉思保をあらび申はるは

換是き入唐の母の

交より口家として

此國の法を伝はる古跡

果もは渡天の志有る

きくは 柳の後の天の

のしるはるはるはる

う那 交痛くやう

もきくは 揚衣の

まの佛の法を

の法を傳はる

の妻く 柳の

の雲をくく

きく胸の月を

天子の神類を龍形と申は雲龍
竜知りしもの又云付きし
倭神は倭をいふ事いふ道は
宇乎と云ふ事いふ事いふ事
法を我女と云ふ事いふ事
皇の法は道と云ふ事いふ事
と云ふ事いふ事いふ事

雲龍今と云ふ事いふ事
虎嘯を
向きの龍もまの事いふ事
有る事いふ事
龍の事いふ事
林の事いふ事
牙を隠す事いふ事
彫る事いふ事

鐵く谷乃下道とくくとく人路を
 けしてづらまきとく 「年」 柳の思深
 山人の教乃まよ山路を竹林
 を隠すの姿を風ぞくまもつと
 しておの多分ちるひさしと
 志く杖のきよもと冷や 上書 あれく
 岩より雲たさくく 俄に降る雨

乃青鳴神稻妻天地の暉くさるは
 中よあつとれゆる人竜の勢ひ遠子
 入事可も行とまきとまの毛もさる
 半なる 上書 かくて馬を竹林に
 松の白くぬとくつと竹林乃岩
 洞よ響け虎乃顯き出れ八雲屋に
 内よと悪風を吹出り一方よを吹

